

J A 大阪府大会 大阪農業振興などを決議

「次代につなげる大阪農業と協同の力」をスローガンに、J A グループ大阪は12月5日、大阪府立国際会議場で第26回 J A 大阪府大会を開いた。

あいさつに立つた J A 大阪中央会の寺下会長は、「生産基盤の弱体化や生産コストの高騰等は J A 運営にも大きく影響。これらの諸課題に対応するためにも、本日の大会では『持続可能な大阪農業の振興』など5項目の大会決議案を提案させていただいた」と述べた。



開会あいさつに立つ寺下会長

J A、連合会など府内の関係者約350人が参集し、10年後のビジョン達成のため向こう3年間の重点施策5項目を決議した。

来賓として大阪府森岡武一副知事、中谷泰典府議会議長、近畿農政局相本浩志局長をはじめ関係者が出席。大阪府農業会議

農業の歴史を市民に P R 門真市農業委員会

門真市農業委員会(西村覚会長)は11月9日に開催された門真市農業まつりの記念事業として、門真市農業の市民理解を深めるため、昭和30年前後の農業の写真展と実際に使用していた農具の展示を行った。

門真市には湿田が多く現在もレンコンの産地が残っている。写真展ではレンコン畑に

の中谷清会長は、「J A グループと農業委員会組織の連携は大阪農業の振興にとって車の両輪。今後もお互いの連携強化をお願いしたい」「この大会を契機に J A に対する経済的、社会的機能に対する府民の認知度を一層高めていただきたい」と祝辞を述べた。

決議されたのは、「持続可能な大阪農業の振興」「協同活動・J A 事業を通じた組合員の豊かなくらしの実現」「活動と

運搬用の舟を浮かべている様子や出荷調整、一斉防除、水稲栽培の現場など、市農業の特徴がよく表れた写真が展示された。

農具展示では、市が保管していた唐箕などに加え、西村会長の自宅に保管されていたものを展示。レンコン栽培用として備中くわ、レンコン鋤、水稲栽培用として、なんば(湿田で体が沈まないように使う田下駄)、田植え用の三角定規、糊とおし、一斗枘などが並んだ。

西村会長は「先人たちが営んでいた農業を市民の皆様が知り、門真市農業に関心を持つきっかけ

事業の好循環による価値提供を支える健全・強固な経営基盤の確立」「協同組合らしい人づくり」「広報活動の強化による J A の魅力発信」の5項目。組合員組織表彰では、J A 大阪中河内松原地区難波葱部会(稲田元正代表)が最優秀賞を受賞した。

(北川)

になれば嬉しい。農業委員会が中心となって歴史を伝えていきたい」と話す。(田村)



「市民の農業理解が深まれば」と西村会長

月間農政ファイル

11・21〜12・20

11・29 政府は、令和6年度補正予算案を閣議決定し、農林水産予算は8678億円となった。前年度と比較して約6%(496億円)上昇し、4年ぶりの増額。新たに「新基本計画推進集中対策予算」を設け、予算の約3割にあたる3037億円を盛り込むなどした。6月の改正食料・農業・農村基本法の施行後、初めての補正予算編成。

12・11 認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえは、全国の子ども食堂の数が今年1万866カ所(前年比19%増)と発表。大阪は938カ所で全国2位。同法人の湯浅理事長は農家や J A からの食材提供を「支えの地産地消」と評価。

12・10 農水省は、令和6年産水稲の収穫量(子実用)は近畿で47万6900トの見込みと公表した。前年産と比較して800トの増加。大阪府の収穫量は2万700ト(前年と比べて1600トの減少)の見込みで、10アあたりの収量は483キ(同20キの減少)。